

令和6年5月23日

広報広聴委員会

阿久根市議会

1 会議名 広報広聴委員会

2 日時

(1) 期日 令和6年5月23日(木)

(2) 開会 午後2時30分

(3) 散会 午後3時23分

3 場所 第2委員会室

4 出席委員

川原慎一委員長、白石純一副委員長、高崎良二委員、
大野雅子委員、川畑二美委員、竹原信一委員

5 事務局職員

議事係主任 松林俊介

6 会議に付した事件

議会だより224号の振り返りについて

7 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

川原慎一委員長

ただいまから広報広聴委員会を開会いたします。

○ 議会だより224号の振り返りについて

川原慎一委員長

本日は、議会だより224号の編集作業の振り返りを議題といたします。

議会だより224号は、原稿ごとに編集委員を決めて編集作業を行い、作成を行いました。

そこで、作業の振り返りを行い、225号の作成方法を検討していきたいと考えます。

224号の作成作業について、委員の皆さんの感想や御意見を伺ってきたいと思います。

それでは、まず副委員長からお願いします。

白石純一委員

そうですね、全体としては各委員の出る回数とか、個人でやる編集作業というのはかなり多かったのではないかなという点で、多分、不平・不満を持っていらっしゃる委員の方もおられるかもしれません。

それに対しての私の提案というか、この委員会になる前までは、かなり事務局への負担が、事務局と委員長に偏ってたと思われまして。

それもあって、今回、委員の関わり方を増やそうということにもなっていると思うんですけども、4～5年前私が委員長をしていたとき、2年前、3年前かな、4年間していたときは、その中間ぐらいの感じだったんですね。

それも参考になるかなと思って、ちょっと今、そのあれをロゴチャットに上げたいと思います。

ちょっと待ってください。

川原慎一委員長

じゃあ、そういうことですね。

白石純一委員

それが編集のことな。

それと、紙面については、今回20ページで結構きつきつだったので、もう少しゆとりを持ってやってもよかったのかなあという、紙面割のことです。

大野雅子委員

今回やはり、初めて最初から最後まで全部自分たちで行ったということで、やり方なんかもやっぱりさっぱり分からないところからのスタートだったので、とても大変だったなというのが印象で、毎回これだったら、ほかの活動もできないなと思ったのが実際のところなんです。

内容的にこういう、事務局がやっぱり楽になればいいかなと思ってでしたが、もうちょっとこう、誰がどうしてっていう、役割分担ができたほうがいいんじゃないかなあというふうには思いましたけれどもというのが実際のところなんです。

内容的には、やっぱり自分で関わったということで、しっかりほかのところまで見れて、皆さんの意見も聞けて大変勉強になりました。

高崎良二委員

今、大野委員が言われたように、初めて内容について携わって、いろいろやったんですが、やっぱり、委員同士のやり取り、それから事務局とのやり取り、いろんなことを考えたときに物すごく資料がごった返したりとか、行き違いがあったりとか、いろんな問題がたくさんあったなと思っています。

やはりですね、自分たちがそこに取られる時間が余りにも多過ぎて、ちょっと大変だったなという気持ちもあります。

もうちょっといいやり方がないのかなと考えたときに、ある程度やっぱり事務局は大変なんだけど、事務局で作ってもらって、その中で、また一つの形があって、そっからの編集という形のほうが、スムーズにいくんじゃないかなと思うんですが。

私はそう思います。

竹原信一委員

今回大変だったのは、特に予算委員会とか1番タイトな時なんですよ、今回の第1回が。

それに対して、ページ数はいつものとおりで変わらない。

それが一つの大きな要因、問題があったということ。

それから、今回の、実はそのA-Zなんかで配られてるの、もう1日で市議会だよりはなくなったそうです。

かなり評判はいいようです。

どちらかという、皆さんの声が生のものが、生に近いものが割合出てたんじゃないかというふうには気がします。

それと文書作成の、先ほど私も言いましたけども、委員長報告ですよ。問題は。

本番でも会議録の朗読をする、委員長自体がそのテーマに、議案に対して理解ができていないんじゃないかというのを感じさせるような、その内容なんですよ。

そして、論点になったのはどうなのか。

そして、1番のテーマは、市民にとってこの条例はどうなる、影響するのとか。そういうところも含めて委員長報告しなきゃいけないし、議会だよりも記さなきゃいけないけれども、そういうことをやってきてないんですよ、もう今まで。

だから、初めての経験っていうか、まあ初めてにもならなかったような気がするんだけど、それをちゃんとやらなきゃいけない。

その道具としてですね、AIはすごく効率的にまとめてくれる。そういうのも活用していくべきだと思います。

私たちが、事務局にさせるというのはやっぱり違って、自分たちのそれぞれの一般質問でもですよ、それぞれの発言者が自分の意図に沿って、ところをちゃん出せるような、それを自由度を上げていくというのが非常に大切で、今回、皆さんのひとことというのもし入れましたけどもあれも含めてですね、やらなきゃいけない。

それから、写真のところ。

あの部分はですね、もうちょっと一人一人がスキルを上げることができるんですよ、簡単にそれは。どっかで切り取って引っ付けるというのは、それはテクニックはお知らせできますのでね、やりましょうよ。

そのためにも、このタブレットにそれが入れられるようにしてもらいたい。

ロックがきつ過ぎる。事務局。入れてちょうだいよ。

そこはちょっとね、使いにくくてしょうがない。

自分が集めた情報を、この議会だよりに載せる道具として使えない。

そして、その業者との打合せなんていうのはほとんど必要のないぐらい、もう事務局もスキルあるわけですよ。完璧にできるのに、あそこに出すために、すごく慌てないかん、中途半端なやつを送らないかんて、やることやっちゃってるもんだから、これはね、もう基本の形としても、ここで全部やるんだと。

そしたら、事務局職員とやりとりしながら、もうでき上がっちゃうんですよ。いつまでにここを出さなきゃってやる必要ない。

完璧なものに仕上げられるスキルはあるのに、わざわざタイトなやり方をしてるという状態でございます。

もっと踏み込んでいけば、もっと楽にいいものができるはずだと私は思います。

川畑二美委員

私も初めて今回のやり方をやまして、やはりなかなか行き違いもあったし、大変だったっていうのは思ってます。

結構この議会だよりに時間がとられて、やはり、私思うんですけど、事務局がやって、その後に編集っていう形でやっぱり考えていかないと、相当、議会だよりだけに時間を取られるっていうことが、本当に今回、えーっ、えーっという感じで感じられたもんですから、できたら、やはり、まだまだ私たち初めてで慣れないところいっぱいあったんですけど、事務局がやっぱり率先してやって、その後で編集という形でしていただきたいなっていうのはすごく感じました。

竹原さんは、それはできてテーマがどうでこうで、テクニックがとおっしゃいますけど、やはり、事務局があっというろんなことは動くことも必要なんじゃないかなと思います。

ぜひ、私はもう、また元に戻してほしいなって思ってます。

川原慎一委員長

ありがとうございます。

私もなので、休憩に入ります。

(休憩 午後2時40分～午後2時43分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

竹原信一委員

それと、議会基本条例にはですね、議会は議員による討議の場であることを認識し、議員相互間の討議を尊重した運営に努めなければならない。本会議及び委員会において議案を審議し、討議をつくせ、とにかくその結果について市民への説明責任を果たすように努め、討議ということを非常に重要視されている、しなければならない部分なんだけども、討議の部分が一切出てこないんですよ。

白石純一委員

本会議については、今、討議がないので、それは出てこないのは当然ですね。

委員会では討議ができるわけですけども、それについても、それほど討議があるわけではない。

実際、現状では、討議はほとんど行われていないので、当然紙面にも出てこないということなんです。

だからそれは、我々は、議会、広報委員会よりも、これは議運であれすべきです。

竹原信一委員

ですから私たちは、市民を盾にというか、市民の皆さんが議会への市民参加を促すのが私たちの責任でございますから、それをてこに、やっぱり正常化といいますかね、本会議で、あるいは委員会でもいいですよ。両方で討議をしなければならぬと決めとって、それができないのはあっちの責任だ、じゃないんです。私たちにも大きな責任があって、あらゆる方法を使って討議の議会にしていかなきゃいけないというふうに思いますよ。

川原慎一委員長

今、竹原委員がおっしゃったことに関しては、議運のほうで、私は、広報広聴委員の委員長としてしっかりお届けして、討議を図られていくような形をとって、それに対する副委員長おっしゃったように、私たちはあったことを伝えるのがまずこの広報委員会の議会だよりとしての務めではございますので、そこを討議がなされる場をつくっていただけるような努力というものを提案、また議運の中で伝えるようにしたいと思います。

竹原信一委員

もう一つ、議会というのは監視機関であると。

そして、執行部との緊張関係を保たなきゃいけない。

その部分が大分ね、全くできてないというか、姿勢がなってないと。向こうが都合がいいようにという動きがあるようにしか感じないんですよ。今日の議論を聞いてても。

私たちは市民の側に立って、緊張関係を保つその姿勢というのを示し続けたいかと思えます。

それで、一般質問という重大な責任ですねこれは、単なる権利じゃないです。

議員がみんな一般質問に参加しなきゃいけないんだと思わせるような場をつくっていかなくやいかん。

例えばですよ、この人は今まで何回一般質問したんだと、1回もしてないな。そんな表をつくってもいいじゃないですか。それによって、俺も一般質問しなきゃいけないって思うようになる。そういうことを私たちはね、後押しというか環境をつくっていく。

そして市民も、この人は仕事をしているんだと。してねえなということを知ることで、議会に対する注目度も変わってくると思う。

川原慎一委員長

今お話しされたのは、阿久根市議会としてどうやっていくか、在り方であったりというところのお話でございましたので、そこはもちろん、しっかり議運に届けてまいります。

その中で、例えば今ございました一般質問の回数に対しての出すことではございますが、ここはほとんどが一般質問される方ですけども、そこに対する御意見、今出ましたけど、どうですか。

白石純一委員

確かにそういうものを出してる議会もあります。

〔「あるの」と呼ぶ者あり〕

はい、あります。

ですから、そういう実例を見て、そのメリットデメリットを、例えばそういうところの

議会に我々広報広聴委員会として、行政視察して聞いてみるというのも、それこそズームでもできるかもしれないし、そういうことを調べるのはいいかもしれません。

竹原信一委員

多分、デメリットがあるのは一般質問を全くしない人たち。するのは仕事で、そしてそれによって市民参加を促す、もう本当の基本的な議員の仕事。

これはね、何だっけ、誘導するようにしましょうよ。

川畑二美委員

一生懸命今、おっしゃってましたけど一般質問の回数をどんなに言っても、御本人次第だと思いますよ。御本人が、何度こんないろんな機関紙をつくってこうこうとやったとしても、本人がもうやらないっていう気持ちがあれば、絶対もう変わらないと思います。促そうとしても、促すことができないんじゃないかなと私は思うんですけど。

それを議会だよりに載せたとしても、どうなんだろうかって今ちょっと一瞬思ったんですけど。

竹原信一委員

問題は、市民がどのように見るかであって、それでもいいのよって、この人はいい人なんだからって、それは仕方がないじゃないですか。

市民が、議会の権利、議員としての権利、責任をやってるかどうかを明らかにするのは当たり前。

その人がそれをやる気がないんだったらもうそれはそれで皆さんが知ればいいわけですよ。すいません。

白石純一委員

議会全体に対して広報広聴委員会の働きかけ云々は、それ議運ともまた一緒になっていろいろやらなきゃいけない。

今日は、まず編集、今回の編集の振り返りなどで、まずそちらを優先したらいかがでしょうか。

川原慎一委員長

はい、ありがとうございます。

一般質問の回数であったり、そういったものは今後、編集に当たっての議案事項として、話し合っていきたいと考えます。

それでは、それぞれ225号の本の作成方法について話し合っていきたいと思います。

高崎委員と川畑委員は、以前の方向で戻したほうがいいんじゃないかという御意見。竹原委員は、このまま今回やった形を継続させて発展させていくという御意見。大野委員は、今の224号の作成の仕方をしつつ、もっとしっかりとした仕事のやり方を明確にして作っていくべきではないか。白石委員からは、今ロゴチャットのほうにも入っておりますが、3年、4年前ですかね、のやり方で白石副委員が委員長時代に取り組んでおられたやり方、こういったやり方でやるのもいいのではないかという御意見が出ましたが、いかがでしょうか。

白石純一委員

私はこれをやっていた頃は、今ほど一般質問の人数も多くなかったし、今ほど討論の人数も多くなかったんですね。

例えば討論、ここではまず、各討論者が自分で今回みたいに、原案を各討論者が作って、

それを広報委員長と事務局で、たまに多いときは副委員長も入ってまず編集をして、それを皆さんでもむというのとは討論についてでした。

一般質問については、各質問者が作ったものを広報委員長と副委員長で半分ずつにして、事実のチェックについては事務局がやるという。例えば今回、私が提案するとすれば、討論や一般質問、ここでは広報委員長、そこに委員が、一人か二人ずつ持ち回りで入ってもいいのかなというのとは提案できるかなと思っています。

川畑二美委員

今これを見せてもらったんですけど、この時ってというのは、結局、委員長が委員長と事務局でやってらっしゃるから、私は、このパターンのほうで。その頃はまだ討論にしても一般質問にしても少なかったわけですね。

〔白石純一委員「今よりはですね」と呼ぶ〕

今からも増える可能性があると思うんですよ。13人が全員言って、討論とかしたら本当に、大変で。だから、私はなるべく事務局が松林さん大変かもしれないけど、体調も悪いし、大変かもしれないんですけど、やっぱり事務局優先で動いてほしいなっていうのはやっぱり、変わらないですね。

サポートで私たちがどんどん入って行って、広報委員長も改めてもう本当に大変だと思うんですけど、そこは副委員長がサポートしていただいたらいいんじゃないかなって思います。私の意見はですね。初めて本当になかなかパソコンも余り得意ではないもんですから、ちょっと大変な思いをいたしまして、まだまだかなって。

パソコンもできて、AI、AIって言われる方もいらっしゃるでしょうけど、AIもまだ使えられてない状態で、皆さんが余りAIを使わない状態で、AI、AIって言われても、まだ普及をなかなかしないと思うんですよ、AIにしても。その中でおっしゃっても、ちょっと私にはちょっと理解できないところです。

川原慎一委員長

ちょっと休憩に入ります。

(休憩 午後2時55分～午後3時20分)

川原慎一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

それでは、次回の編集方法でございますが、224号に比べると、負担を減らしていくという形でいきます。

まず、表紙、総括、表決、裏の表紙に関しては、私川原と事務局で作っていきます。

委員会報告、討論、それぞれの一般質問に関しては、私以外の5人の委員で作っていただくということになります。

御異議ございませんか。

大野雅子委員

総括のあたりなんかは、こんなのがいいんじゃないかという話し合いはもう、ここでは一旦持たずに、もう委員長と。

川原慎一委員長

前回の223号までのやり方で作ります。

大野雅子委員

それですということでもう皆さんいいということですね。

竹原信一委員

〔竹原信一委員「提案があれば出してもいいですよ。皆さんからの提案があれば」と呼ぶ〕

川原慎一委員長

そこはください、あれば。

〔川畑二美委員「いいんじゃないですか223号の前ので」と呼ぶ〕

〔大野雅子委員「私は言いと思うんですけど」と呼ぶ〕

白石純一委員

全体的にそうなんですけれども、写真と余白をできるだけとって、中学生や高齢者が見やすい、文字だけだとなかなかそういうわけにいかない。

だから写真や余白をとることで、中学生や高齢者も手に取ってくれやすい、紙面づくりや必要かなと思います。

川原慎一委員長

そこもいろいろ考えていただいて、作っていくということでもよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議ないということで、225号の編集方法に関しては、そのようにやっていくということに決しました。

それでは、次の広報広聴委員会に関しては、まだ流れをつくっていかなければいけませんので6月の10日か11日に、5人の委員の方々は寄っていただいて、委員会報告の作り方というものは話し合ってください。

それはもう5人で話し合ってください、いつどこですという報告は私にいただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

ごめんなさい、6月の6、7が委員会予定日なので、その2日の間までに、皆さん方のお考えをいただいて話し合ってくださいと思います。

それでは、以上で、広報広聴委員会を散会いたします。

(散会 午後3時23分)

広報広聴委員会委員長 川 原 慎 一